



# ふれあい なのかいち



新型コロナウイルスの影響で地区行事も制限されてきた状況でしたが、ワクチン接種などで感染者がおちつきはじめた中、久しぶりの公民館活動「ふるさと史跡巡り」が行われました。

前日までの雨が嘘のような秋晴れの中、二十六名の幅広い年代の方々に御参加いただきました。



「ふるさと史跡巡り」

生活産業部長 平坂 寛



普段の生活の中で何げなく通っていた道、見ていた風景の中に、歴史的にとっても重要な物がたくさん存在していた事に気付く機会となりました。

小学校のお子さんはもちろん、大人の方々にしても、歴史を学び、昔

の風景に思いを巡らせる時間になったと思います。

私はこの日を境に「中村観音原」の「板木」を見る度、この小さな板は何百年も前から地域の人々を繋げる為にここに存在してきたんだな・・・と、歴史のロマンを感じるようになりました。



ふるさと史跡巡り 【2021年10月2日】

## 「第二回女性学級に参加して」

女性部副部長 杉田 兼子

十一月七日、第二回女性学級が開催されました。講師は曾根原孝和さんでテーマは「太平洋戦争に学ぶ」く七日市場の戦死者を通してです。七日市場出身で亡くなられた方々の中から、四人の方々の戦争への関わり方、家族への手紙、教え子からの手紙や最期の様子などをお聞きしました。悲惨な戦争を二度と起こしてはいけない、戦後七十六年続く平和をこれからも守っていきたく強く思いました。

## 「女性学級総括」

公民館総務 寺沢

太平洋戦争時の軍関係の戦死者は三郷全体で三百八十八名、七日市場では十八名。戦死者名簿を拝見するに七日市場地区でよくお聞きする姓が並ぶ。年齢は二十代から三十代。職業は教師、軍人、または歯



女性学級【2021年11月7日】

科医を夢見た者。同じ七日市場で育ちながら、亡くなった場所は全員異なる海外の地。最期はおそらく、故郷の山々や田園風景が浮かんだことと思う。遺族の方々にとって切なくつらいことを思い出し語ってくれることで、亡くなった方の想いが消えずに残っていく。戦争体験を語れる人が少なくなっていく今、このように話を聞く機会があることと講師の方に感謝をし、次の世代に語り継がなければと感じた。

## 「人権について学ぶ」

安曇野市人権教育推進委員 岩井 敏晴

十一月二十一日にコミュニティセンターで人権講習会がありました。

講演会では池田先生は自分の体験談から「人権一般に学ぶ」・曾根原先生は金子みすゞや宮澤賢治の生涯から「優しさ・思いやりを考える」をテーマに講演され、先生方は「思いやりの心と優しい気持ちを持つことが大切」と話されました。多くの参加者が熱心に聞き入り人権について学ぶことができました。



池田安宏先生(安曇野市人権教育指導員)



曾根原孝和先生(前安曇野市人権教育指導員)

「みやび会敬老祝賀会」

みやび会会長 萩原 昭平

九月二十日、敬老の日に因んで恒例の敬老祝賀会を開催しました。コロナ禍での開催には心配もありましたが、来賓を含め三十七名参加されました。アトラクションの後祝賀式、今年は「寿百歳」一人、「金婚式」二組に、県・市連合会から祝い状が贈られました。受賞者謝辞、来賓方からは激励のお言葉をいただき式典は終了。

日頃の引き籠りから解放された参加者からは、喜びの声が聞こえるひと時でした。



みやび会敬老祝賀会【2021年9月20日】

毎年木枯らしが吹くころ、みやび会の皆さんと区長が七日市場公園の落ち葉清掃をしています。昨年はなんと軽トラック2台に落ち葉が山積みになりました。おかげさまできれいになりました。

「しめ縄講習会に参加して」

生活産業部副部長 召田 龍夫

七日市場に越してきて、初めてしめ縄作りに参加させて頂き、しめ縄作りにも昔からの言い伝えなどあり勉強になりました。作業に取りかかって作り始めましたら、見ると作るのでは違い、上手く出来た人、又それなりの人？ 良い経験になりました。参加者の皆さん大変ご苦労様でした。

七日市場ホームページへ、しめ縄作りの作り方をアップしています。動画もありますので是非ご覧ください。今年の年末！に向けて練習などいかがでしょうか。



しめ縄講習会【2021年12月12日】

✓「いま、これが気になっています！」

年齢のせい、昨今の神社ブームのせい、最近神社が気になります。皆さんご存じでしたか？今年の4月、七日市場諏訪神社は式年遷宮※を迎えるのです。氏子総代の皆さんはお忙しい年になります。それに向けて拝殿の前面にはきれいな格子の引き戸が付けられ、内壁も張替えられていました。拝殿内から見てもとても美しいです(格子戸大好き)。上をみると大きな梁に「元治」の年号が記されています。江戸末期、慶応のひとつ前の時代に建て替えられたようです。江戸時代の七日市場はどんな様子だったのでしょうか、見てみたいです。

編集人 寺沢



拝殿前面を内側からみると



元治と書かれています

※式年遷宮とは：神社等において、周期を定めて社殿を更新し、新たな社殿に神体を移すこと。

### 七日市場の歴史(第五十二回)

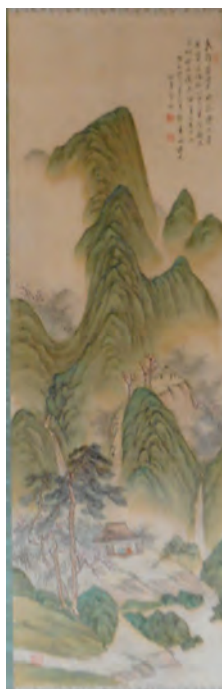
文人画家 細田香雨さん ほそだこうう ③

曾根原 孝和

絵画追究の姿勢 香雨は、師藤森桂谷が亡くなつてからは、大家といわれる方との交流はありましたが、師を持ちませんでした。その後のおよそ七十年間は、画風に変化や発展が見られませんが、「無声の詩」としての絵画を追い続けました。

南宋画家として、柔らかな描線、主観的写実を軸とする手法をとりながら、風景・花鳥草木・昆虫などを写生していたようです。ですから、桂谷亡きあとの師は、郷里安曇野の自然だったといわれています。

野に生きた画家 香雨の生家は農業を主にしていましたが、子息が農学校を卒業する頃には、六反の畑を開墾し農地を増やしました。したがって、昼



(127 cm × 40 cm)

は厳しい労働で、作画は夜遅くまで行い、「東京の絵描きに負けてたまるか」が口癖だったといわれています。子息亥八郎さんは、「香雨の絵は、精妙、流麗、器用とはいいがたく、どこか土くさい粗い線があるように思えます。しかし、その

土の香り、しつかりとした粗い線こそ、百姓の手で描かれた必然性があります。香雨の作品にいささかでも生命があるとすればしりではないかと思えます」と述べています。

絵画の紹介 安曇野市教育委員会は、令和三年三月『安曇野風土記Ⅳ 安曇野の美術』を発刊し、第二章「安曇野の文人画家」で細田香雨の絵画を紹介しています。

一つは、前述の有明山神社神楽殿の格天井絵「水仙」です。八一枚中の逸品八枚のひとつで、のびやかな筆遣いの表現といわれています。

二つは、「地域で活躍した文人画家」として、絵画三幅を紹介しています。それは、右に掲載した絶筆の「朝揮画筆」と「夏中寒泉図」「七草」です。それぞれには、漢文や詩が添えられ、絵と合わせて情景が目に見えかぶようにしています。

### 編集後記

こちら辺では上高地線と呼ばれている国道一五八号線は、松本市より岐阜県高山市を経由して福井県福井市に至る三百キロの一般国道なのだが、その途中、九頭くづ竜湖りゅうこを少し南下した所に面谷おもたに鉾山跡地があり、四年ほど前に近くを通ったことがあります。百年前の大正七年から十年に流行したスペイン風邪で九十人以上の住民が亡くなり、それが元で鉾山が閉鎖され三千人の鉾山町も消滅したといった内容の観光看板を読んで驚愕したことを覚えています。コロナ流行前です。「まさか」そのスペイン風邪と同様な感染症がその一年後に現実に流行しパンデミックにまで発展しようとは思ってもいないことでした。コロナ無くしては語れない二年間でした。十分な活動ができないまま主事の任期が終了しますが、また協力させていただきたいと思いません。

主事 佐藤

### 七日市場地区公民館報 ふれあい なのかいち

Vol.20 No.3 第57号  
【発行日】2022年2月12日  
【発行所】七日市場地区公民館  
【発行人】岩井 敏晴  
【編集人】寺沢 則彦  
【監修】佐藤 貞雄  
【編集委員】  
渡辺 昭典 (文化部)  
山崎 春男 (体育部)  
小林 良仁 (生活産業部)  
中島 歩 (女性部)  
木船 章 (ボランティア)  
花岡 正明 (ボランティア)  
松尾 常德 (ボランティア)  
丸山 博幸 (ボランティア)  
【HP監修】  
松尾 学 (ボランティア)